

千葉県三角構想の重要な一角がまったく機能しないことが周囲に思わぬ悪影響を与えているといえます。

数億円に上る地代は誰が支払っているだろうか?といった素朴な質問がもっとあるべきだと憤っています。こうしたやる方ない思いがあり、先日ある審議会で質問したところ、「主要面積は木更津市ですから君津は深くかかわってません」と答えが返って来ました。

四市合併論が生まれる要因はこんなところにもあることを教えられました。

かずさアカデミアパークの全国的、世界的イメージは「教育と先端医学」集積地であります。

しかし、世界最高の遺伝子工学研究所の中心として作られた一帯の森は、鳥達の格好の住まいとなり、さえずりが聞こえるだけのようにも思われます。

アカデミアパークを成功させることによって、母都市である木更津・君津の活性化がなされるといえます。

一つの提案ですが、今、かずさ地域に必要な施設はむしろ、大量生産されたものが取引される大型物販業でも、土地取引などの不動産業でもないと思っています。

私を知る範囲では、産・学・官の連携の重要性が叫ばれている中であって、かずさ地区には総合大学がありません。こうした大学の誘致を検討していくことが必要であるといえます。日本有数の幾つかの大学が医学部を持っていません。医学部を持たない大学は、産・学・官の連携を進めていく上で、弱みになりかねません。首都圏からの立地条件、自然環境、インフラ整備の面を考慮した上で、その最適地はかずさアカデミアパークです。更には、40校を超える薬科大学からも新設の希望もあります。

“教育と先端医学”を目指す上で、“静岡の医療団地”が格好のモデルとなります。この静岡に勝るとも劣らぬアカデミアづくりを願いたいものです。

四市の市長がエリア意識を超えてのコラボレーションを実現すると共に、堂本知事がトップセールスをする気概を持つ時であります。

教育と医療、知識と健康の充実、これからを生きる最大の願いであります。

全国から静岡の医療団地へと最先端医療を求めて集まる人を確かめて下さい。